

サクッとラララな毎日へ。

SAKULaLa

2026年7月9日  
株式会社日立製作所  
東武鉄道株式会社  
オムロンソーシャルソリューションズ株式会社  
日本信号株式会社  
株式会社東芝  
パナソニック コネクト株式会社

## 生体認証サービス「SAKULaLa」を活用した、国内の主な改札機と連携可能な顔認証改札の仕組みを実現

既存改札を手軽にウォークスルー型顔認証改札へ

都内初、池袋駅で導入し、改札から店舗までつながる「手ぶらで快適な生活体験」を具現化



「SAKULaLa」を活用した顔認証改札の利用イメージ

<イメージ動画：<https://youtu.be/f1AMG02vfG4>>

株式会社日立製作所(以下、日立)と東武鉄道株式会社(以下、東武鉄道)は、鉄道改札機メーカーであるオムロンソーシャルソリューションズ株式会社(以下、オムロン)、日本信号株式会社(以下、日本信号)、株式会社東芝(以下、東芝)、顔認証技術を提供するパナソニック コネクト株式会社(以下、パナソニック コネクト)と連携し、生体認証サービス「SAKULaLa(サクララ)」を活用した、国内の主な改札機\*1と連携可能なウォークスルー型\*2顔認証改札の仕組み(以下、「本仕組み」)を実現しました。

本仕組みを活用することで、多くの鉄道事業者は既存の改札機に顔認証用のカメラを追加で設置し、「SAKULaLa」などとネットワーク接続するだけで、改札機を交換することなく、短期間かつ導入コストを抑えながら、ウォークスルー型の顔認証改札機へと切り替えることができます。また、国内の主要な鉄道改札機メーカー3社であるオムロン、日本信号、東芝の改札機に対応したことで、全国の鉄道事業者の多くで本仕組みを利用することができます。さらに、日立独自のセキュリティ技術である公開型生体認証基盤(PBI\*3)を活用し、生体情報を復元できない形で暗号化することで高いセキュリティを維持しながら、駅の利用環境において求められるスムーズな通過に対応するためのレスポンス性能も実現しています。

本仕組みの都内初\*4の事例として、7月15日から、1日約42万人\*5が利用する大規模ターミナルである東武東上線の池袋駅に導入します。今後6社は、東武鉄道の駅にとどまらず、全国の鉄道事業者へ、顔認証改札の導入促進に取り組んでいきます。さらに、東武鉄道と日立は、東武百貨店をはじめとする駅周辺の商業施設や飲食店などにおける決済や各種サービスへの「SAKULaLa」の導入を推進します。「SAKULaLa」を通じて、改札の入出場、決済、本人確認などの利用シーンを一つのサービス上でつなぐことで、移動から買い物までを安心・安全・便利に楽しめる手ぶら\*6の生活体験の実現をめざします。

## ■本取り組みの背景

近年、ライフスタイルの多様化に伴い、鉄道の「駅」は単なる移動の通過点にとどまらず、買い物や食事など生活に密着した多様な活動の拠点へと進化しています。日立と東武鉄道は、こうした背景を踏まえ、指静脈・顔を活用して手ぶらで決済や本人確認ができる生体認証サービス「SAKULaLa」を展開し、よりシームレスで豊かな生活体験の創出をめざしてきました。その実現に向け、2025年11月の東武宇都宮駅から栃木駅までの全12駅における独立型タブレットを用いた顔認証改札の利用、そして、2026年5月の東武宇都宮駅におけるウォークスルー型顔認証改札機の利用といった先行施策を通して、実際の駅環境におけるシステムの安定性や運用ノウハウを蓄積してきました。

一方で、この「手ぶら体験」を社会インフラとして全国に広げていくためには、鉄道各社がこれまで整備してきた既存の設備資産を有効に活用しながら、スムーズに展開できる環境づくりが求められていました。そこで、先行施策で得た実績・ノウハウをもとに、主要な改札機メーカーと連携し、稼働中の改札機にカメラをアドオンするだけで顔認証機能を追加できる仕組みの開発に至りました。

今回、膨大な交通量を抱える都内の主要駅での実用化に向け、1日約42万人が利用する東武東上線池袋駅において、既存改札機にアドオンした顔認証機能の稼働を開始します。混雑環境下における処理速度や運用方法の検証・高度化を図ることで、駅周辺の商業施設を含めた「手ぶらで快適な生活体験モデル」の本格的な社会実装を推進します。

## ■本取り組みの概要

### 1. 「SAKULaLa」を活用したウォークスルー型顔認証改札の特長

#### ● 全国の幅広い鉄道事業者が活用可能なオープンエコシステム

国内の主要な鉄道改札機メーカー(オムロン、日本信号、東芝)と協力し、各社の改札機と「SAKULaLa」を連携させるための汎用的なシステム基盤を構築することで、顔認証改札を容易に導入することが可能になりました。今後は、この汎用性を活かし、全国のあらゆる鉄道事業者へ、顔認証改札の導入促進に取り組んでいきます。

	オムロン製	日本信号製	東芝製
顔認証改札機			
既存改札機			

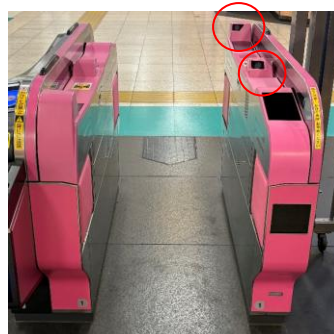
※丸囲み部分は、既存改札機に追加設置する顔認証用カメラ

- 既存の改札機にアドオン可能な導入の容易さ

顔認証などの機能を既存の改札機にアドオンできる仕組みにより、改札機本体の新規入れ替えを伴わず、鉄道事業者の導入にかかる初期コストや工期を抑制でき、スピーディーな実装が可能です。



既存改札機(池袋駅)



顔認証機能アドオン後の改札機



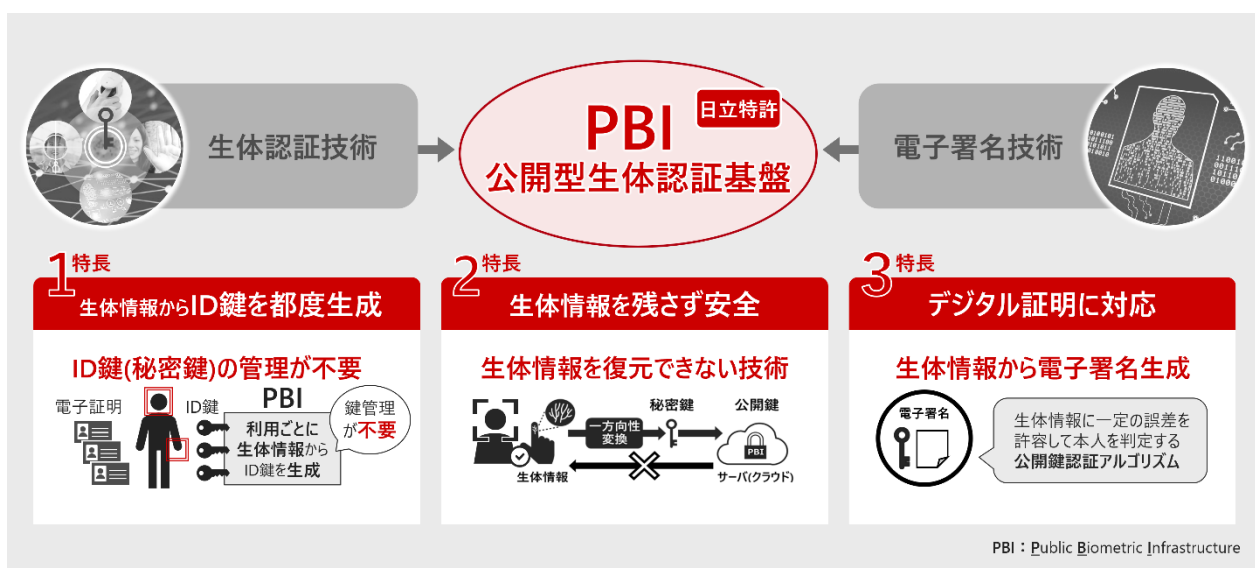
- 鉄道各社が個人情報や生体情報を取得せずにサービスを提供できる「SAKULaLa」の仕組み

「SAKULaLa」は会員情報を一元管理するプラットフォームであり、本仕組みを導入する鉄道各社においては、お客様から個人情報や生体情報を取得することなく顔認証改札のサービスを提供できます。また、利用者においても、「SAKULaLa」へ必要な情報を一度登録しておけば、本仕組みを導入する鉄道各社に対して追加の手続きを行うことなく、各社の顔認証改札のサービスを利用できます。

- 安全な生体情報の保護技術

日立の独自技術である生体認証に関するセキュリティ技術「PBI」とパナソニック コネクトの顔認証技術を連携させることで、個人識別符号にあたる顔情報を極めて安全に管理しつつ、スピーディーで快適な認証を提供することが可能です。

【参考】安全性と利便性を両立する公開型生体認証方式に関する発明で全国発明表彰「日本経済団体連合会会長賞」を受賞(<https://www.hitachi.com/ja-jp/press/articles/2026/05/0526/>)



PBI の特長

※駅利用者(SAKULaLa 利用者以外を含む)への個人情報取扱いはこちらからご参照ください

[https://www.tobu.co.jp/campaign/kaoninsho\\_service/](https://www.tobu.co.jp/campaign/kaoninsho_service/)

## 2. SAKULaLa を活用した顔認証改札の導入実績・計画

- 2025年11月13日：東武宇都宮線と栃木駅の全12駅にて独立型タブレットを用いた顔認証改札の稼働開始
- 2026年5月27日：東武宇都宮線 東武宇都宮駅にてウォークスルー型顔認証改札の稼働開始
- 2026年7月15日：東武東上線 池袋駅・上板橋駅にてウォークスルー型顔認証改札の稼働開始
- 2026年9月まで：東武アーバンパークライン 船橋駅・馬込沢駅にてウォークスルー型顔認証改札の稼働開始
- 2026年度中：ICと併用できる顔認証改札機の開発・東武線の一部路線に導入
- 2027年度以降：東武線における設置箇所の拡大、東武鉄道以外の鉄道事業者への導入拡大をめざす

### ■今後の展望

今回の東武東上線池袋駅・上板橋駅に続き、2026年9月までに東武アーバンパークラインの船橋駅・馬込沢駅にて既存改札機へ本仕組みを適用し、稼働を開始する予定です。これにより、先行導入している東武宇都宮駅を含め、主要改札機メーカー3社すべてに対応した改札機の利用が開始されます。さらに、これらの改札機においてICカードとの併用機の開発などを推進し、既存の設置スペースや改札機数を維持したままでも柔軟に対応することで、全国の鉄道事業者の皆さまが採用しやすい環境を整備します。

また、商業、飲食、エンターテインメント、文化施設が集積し、東武線最大の都市ターミナルである池袋駅での実績を強力なモデルケースとし、膨大な交通量と混雑環境下で実用化された技術を活かして、鉄道を起点とした「手ぶらの生活体験」を、東武百貨店をはじめとする駅周辺の商業施設や街なかのサービスへと段階的に拡張します。

鉄道での移動と、その先の買い物や観光といった街での体験が連続的に発生する都市ターミナルにおいて、改札と街をシームレスに繋ぐためには、鉄道事業者単独の取り組みにとどまらず、街のサービス提供者が業界の枠を超えて連携することが不可欠です。今後もさまざまなパートナーとの協創を通して、全国の鉄道事業者および沿線地域における新しい利用体験と価値の創出をめざしていきます。

### ■各社の主な役割

企業	役割
日立	「SAKULaLa」の共同運営・開発(システム開発)、クラウド型の生体認証基盤(PBI)の提供、生体認証が利用可能な端末の開発・提供
東武鉄道	「SAKULaLa」の共同運営・開発(顧客体験の設計)、東武グループ施設での先行導入および「SAKULaLa」運用ノウハウの提供
オムロン	定期券の入出場判定システムの開発・提供、顔認証に対応した自動改札機の開発・設置・運用
日本信号	顔認証に対応した自動改札機の開発・設置・運用
東芝	
パナソニック コネクト	「SAKULaLa」への顔認証技術の提供、各改札機と「SAKULaLa」の接続連携開発

## ■「SAKULaLa」の概要

利用者がスマートフォンや IC カードなどを用いることなく、デジタル空間上に保存されている個人の属性情報(デジタルアイデンティティ)に、生体認証(指静脈認証と顔認証)を活用して安全にアクセスすることで、業種を横断して、決済、ポイント付与、本人確認、ホテルのチェックイン、改札の入場、オフィス・スポーツクラブの入退館などのサービスをワンストップで実現する日立と東武鉄道が提供するサービスです。

生体認証には、日立が提供する公開型生体認証基盤(PBI)を適用した「生体認証統合基盤サービス」を利用し、高いセキュリティでサービスを提供しています。また、指静脈認証は、日立指静脈認証装置 C-1<sup>\*7</sup> を利用、決済に関しては「IoT 決済プラットフォームサービス<sup>\*8</sup>」を利用しています。本サービスは、2024 年 4 月より提供しており、2026 年 7 月現在 20,000 名以上の方にご登録いただいています。

今後も、鉄道を起点とした「手ぶら体験」を、駅ナカ施設や沿線の商業施設、街なかのさまざまなサービスへ拡大し、業種を横断した「SAKULaLa」の導入を通して、人々の生活をより便利に、豊かにする社会インフラの構築をめざします。



## ■「SAKULaLa」の Web サイト

・一般利用者向けサイト

<https://sakulala.com/user>

・導入企業向けサイト

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/dip/index.html?pr=260709>

## ■お問い合わせ先

導入企業向けサイト

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/dip/index.html?pr=260709>

## ■商標注記

- ・「SAKULaLa」は東武鉄道株式会社の登録商標です。
- ・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

## ■日立について

日立は、IT、OT(制御・運用技術)、プロダクトを活用した社会イノベーション事業(SIB)を通じて、社会インフラをデジタルで革新し続けるグローバルリーダーをめざし、環境・幸福・経済成長が調和するハーモナイズドソサエティの実現に貢献します。デジタルシステム&サービス、エナジー、モビリティ、コネクティブインダストリーズの 4 セクターに加え、新たな成長事業を創出する戦略 SIB ビジネスユニットの事業体制でグローバルに事業を展開し、Lumada をコアとしてデータから価値を創出することで、お客さまと社会の課題を解決します。2025 年度(2026 年 3 月期)売上収益は 10 兆 5,867 億円、2026 年 3 月末時点で連結子会社は 606 社、全世界で約 29 万人の従業員を擁しています。詳しくは、[www.hitachi.com/ja-jp/](http://www.hitachi.com/ja-jp/)をご覧ください。

## ■東武鉄道について

東武グループは、東武鉄道を中心に鉄道・バス業などの運輸事業、ホテル業などのレジャー事業、分譲・賃貸事業などの不動産事業、百貨店業などの流通事業、建設業などのその他事業の 5 つのセグメントで事業展開し、東武鉄道および連結子会社 65 社から構成されています。特に、鉄道事業は、関東私鉄最大の鉄道ネットワークを有するほか、世界一の高さを誇り東京のシンボルである東京スカイツリー®は、電波塔としても重要な役割を果たしているなど、グループとして様々な社会インフラを有しています。

## ■オムロンソーシャルソリューションズについて

オムロン ソーシャルソリューションズ株式会社は、独自のオートメーション技術で、自動改札機や交通管制システムをはじめ、世界初・日本初の社会公共システムを数多く生み出してきました。労働力不足・エネルギー・レジリエンスといった社会課題に対し、IoT/AI、パワーエレクトロニクス、エネルギーマネジメント、ソフト・クラウド技術を融合したトータルサービスを、提案から運用・保守まで一貫して提供。再生可能エネルギーの普及など社会インフラの持続性向上に貢献し、“ソーシャルグッド”あふれる未来の実現を目指します。

## ■日本信号について

日本信号グループは、交通インフラを支える企業として、「安全と信頼」を企業活動の根幹に据え、社会課題の解決とインフラの進化に貢献する新たな価値創造を推進しています。市場ニーズに対応した製品・サービスの開発と社会実装を加速し、より安全で快適な社会の実現を目指しています。

ステークホルダーからの信頼と期待に応えながら、2028 年度の創立 100 周年に向けて、成長性と効率性の両立を図るとともに、サステナビリティ経営を通じて企業価値の向上と持続的な成長を目指しています。

## ■東芝について

東芝グループは「人と、地球の、明日のために。」という企業理念のもと、150 年以上にわたり社会の発展に貢献してきました。エネルギー、デジタルインフラ、デバイス & テクノロジーの幅広い領域の事業を通じ、持続可能な未来の実現を目指しています。

2025 年度の連結売上高は約 3 兆 7,000 億円、全世界の従業員数は約 9 万 4,000 人です。詳細は当社ウェブサイト (<https://www.global.toshiba/jp/top.html>) をご覧ください。

## ■パナソニック コネクトについて

パナソニック コネクトグループはパナソニックグループの B2B ソリューションの中核を担う企業集団です。「現場から 社会を動かし 未来へつなぐ」をパーパスに、製造業 100 年の知見とソフトウェアを組み合わせたソリューションや高度に差別化されたハードウェアの提供を通じて、サプライチェーン、公共サービス、生活インフラ、エンターテインメントのお客様をつなぎ、「現場」をイノベーションすることに取り組んでいます。また、世界最高水準\*9 の顔認証技術を有する企業として、鉄道・空港・医療機関など様々な業界に多数の本人確認ソリューションを展開しています。

詳細は当社ウェブサイト (<https://connect.panasonic.com/jp-ja/>) をご覧ください。

\*1：オムロン、日本信号、東芝の改札機を対象としており、3 社は国内私鉄などにおいて高いシェアを有する

\*2：IC カードやスマートフォンをタッチすることなく手ぶらで通過できる

\*3：日立の公開型生体認証基盤(PBI: Public Biometric Infrastructure)を適用した「生体認証統合基盤サービス (<https://www.hitachi.co.jp/products/it/finance/innovation/pbi/index.html>)」を活用し、PBI とパナソニック コネクトの顔認証技術を融合することで、安心・安全な顔認証を提供

\*4：2026 年 7 月 9 日現在、東武鉄道調べ

\*5：2025 年度 1 日平均の乗降人員

\*6：顔認証改札を利用する場合は、定期券の所持が必要

\*7：日立指静脈認証装置 C-1 の Web サイト

[https://www.hitachi.co.jp/products/it/veinid/solution/pbi\\_solution/c-1/index.html](https://www.hitachi.co.jp/products/it/veinid/solution/pbi_solution/c-1/index.html)

\*8：「IoT 決済プラットフォームサービス」の Web サイト

<https://www.hitachi.co.jp/products/it/finance/solutions/application/payment/iot-payment-pf/index.html>

\*9：2022 年 11 月 6 日に公開された NIST FRTE 1:1 評価結果において、Mugshot(人種・経年変化を含む正面顔データ。他人受入率 10 万分の 1)で世界 1 位を獲得。更に、2024 年 3 月 26 日に公開された NIST FRTE 1:N 評価結果(検索精度)において、Mugshot(経年変化を含む正面顔データ。160 万名登録)、Border(顔の向き変化や画質劣化を含む顔データ。160 万名登録)の 2 つの評価カテゴリで世界 1 位を獲得。

以 上